

令和6年度 10月定例会会議録

- ◎招集年月日 令和6年10月25日(金)
- ◎開催日時 令和6年10月31日(木) 午後3時～午後4時42分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席委員 福與教育長、北原教育長職務代理者、田畑教育委員、黒河内教育委員、宮坂教育委員
- ◎欠席委員 なし
- ◎出席職員 三澤教育次長、唐澤学校教育課長、北林子ども相談室長、矢澤生涯学習課長、早川市誌編さん室長、小島社会教育指導員、小松指導主事、酒井指導主事、伊藤教育総務係長

1 開 会

2 あいさつ 教育長

- ・先月下旬にかけて全ての中学校での文化祭、そして上伊那教育研究課程協議会、先週は長野県市町村教委総研修会にご参加いただいた。
- ・いよいよ明日から11月となる。11月は日本の暦では霜月、霜月という言葉を開くと思いたすフレーズに「霜月20日の丑三つ、霜月20日の晩、豆太ほど臆病なやつはない。」があり、夜中におじいちゃんの具合が悪く、医者を呼びに真っ暗の山道を下る中で、豆太は怖くてしようがないが、もちもちの木に光が灯るのを見た。
- ・おじいちゃんは「そんなに自分は臆病だと思わない。人間優しささえあれば、いざというときには自分の力を発揮できるものだ。」と言ってくれる。いつも霜月、11月を迎えると、そんなもちもちの木の、そしてあの切り絵を思い出す。
- ・11月もお力添えいただく場面が多いが、よろしく願いしたい。

3 委員の一言 教育長「蕪崎市の市政70周年と松姫」

4 会議事項

第1 教育長報告

- ・9月27日、日本総合男子ソフトボール大会、実質日本一を決める大会がこの伊那市であった。今年から天皇杯というか冠が付いた。天皇杯のトロフィーは、宮内庁からのお達しで絶対素手で触ってはいけない、持つときは手袋をする、傷つけたり、無くしたりしたらもう天皇杯の冠をつけてはいけない、というルールになっているが、その大会が伊那で初めて開催された。
- ・10月4日、伊那養護学校のどんぐりまつりがあり、オープニングセレモニーから第一部の音楽会を見学した。子どもたちは生き生きと音楽を楽しみ、それを支えている学校の先生方、そして見守っているご家庭の皆さんの姿は温かくて良いなと思った。
- ・10月5日、古文書解読コンテストをやっており、高遠に眠っている古文書の解読作業に多くの皆さんにチャレンジいただいている。
- ・10月6日、上伊那童謡唱歌を歌う集いがあった。高遠と長谷の皆さんが、子どもと大人が一緒にチームを作って、今回、初めて参加してくれた。地域の大事なところを見せていただいた。
- ・10月18日、部活動の地域移行の協議会があった。28人の委員、7人のオブザーバーに入っていてスタートした。何とか子どもたちにとって良い形になる地域移行にしていきたい。
- ・長野県市町村教委連総会では講師の話が印象に残っている。インクルーシブ教育ということで、学校は多様な方が出会える場であるはずなのに、普通に乗れない方は別の場で学ぶ結果、同歯性が高まっている。例えばどうしたら今ある運動会に参加できるよう支援したらいいのかを考えるのではなく、どういう内容に変えていけば全員が参加できるようになるかを考えていくこ

と、インクルーシブという考えは大事、という言葉がとても印象に残っている。

- ・10月26日には伊澤修二記念音楽祭があり、高遠北、高遠小、高遠中、そして東部中の合唱団、小中学生が参加してくれた。午後は高遠中の生徒が、大地讃頌を藝大のオーケストラと一緒にやる、一生に一度くらいしかないチャンスに出会えて良い時間をもらっていると思った。伊那市全体の合唱団、各中学校の合唱に広げていけたら良いなと思った。
- ・キャリア教育上伊那交流会 in 駒ヶ根市ということで、第11回の交流会が開かれた。赤穂中学校の生徒、東中の生徒、そして高校生も混じって大人と一緒にトークセッションがあった。さすがに中学生で、大人の嫌なところは「ポイ捨てる所」や「自己中なところが嫌い」など、自分の中では自己中という意識がないけれども自分の姿を見返すチャンスになったし、中学生と大人はこういうふうには話ができてさうだという気がした。11年続けており、大きな成果になっていると感じた。以上教育長報告とさせていただきます。

第2 報告事項

(1) 伊那市中学生キャリアフェス2024の開催について

- ・学校教育課長から資料に基づき説明
- ・教育委員から「今年度はキャリアコーディネーターが空席となっている。来年は10回目となるが、雇用環境が激変する中で、4月から簡単に採用できるものではないと思う。キャリアコーディネーターの方には4月から1年通してやっていただくことが望まれるが、そういう人が現れることは今年の実験から言えば無いので、今から考えて行く必要がある。」との意見があった。

(2) 第1回伊那市立中学校部活動の地域移行協議会の報告について

- ・学校教育課長から資料に基づき説明
- ・教育委員から「資料の量と中身が多く、議論されているメンバーを見ると中身の濃い話し合いが進んでいる安心感はあるが、方向性や議論の余地など、保護者や中学生にもわかる情報提供が大切ではないかと思う。何が議論されているのか、何が問題点なのかを整理し、ホームページで公開し、一般的に見た人が方向性や模索している内容、決まったことがわかるものを提供する責任があると思うので検討いただきたい。」との意見があり、学校教育課長から「協議会での意見、内容について取りまとめて、誰が見ても理解できる情報の提供に努めたい。」旨の回答があった。
- ・教育長職務代理者から「目指す地域クラブ像に『好きです！わたしのクラブ！！』(所属感・居心地)とあり、次の目指す子ども像の後に(追求、探究)とあるが、下にもキーワードがあり、この括弧があることでかえってわかりづらくなっていると思う。」との意見があった。
- ・教育長から「主人公になる子どもたちにも理解できるようなホームページ、情報提供に努めていきたい。来年度、7割が土日の部活動を地域移行するとの報道があり、昨日の都市教育長会議で確認してところ、概ね令和8年度末までに移行を目指すとのことだった。県教委には誤解を招く報道については注意いただくようお願いした。」とのコメントがあった。

(3) ICT Conference2024 in INAについて

- ・学校教育課長から資料に基づき説明
- ・参加した教育次長から「ICTを使う、アプリを使うところに終始していることがあるが、それらは授業を変えていくためのアイテムであり、ツールであるの話があり、手段として、どう変えていくか、学びが変わっていくかを先生たちも学んで欲しいとの話があった。私が興味を持ったのはプロジェクト学習と探究の学びの中でプロジェクト学習はぜひうちの職員もやってほしいと感じた。探究の授業でのプレゼンはすばらしく、どうやったらできるようになるか質問があり、答えは『場数を踏むこと』とのことだった。」との感想があった。

- ・教育委員から「講師の話聞いた後の質問コーナーで、伊那中の教師の皆さんが質問された。教師の1人が発言すると、何か支えるようにこやかに見守っていた。伊那中の先生たちも探りながら、また自信を持ちながら取り組みをしている印象があり、先生たちにやる気がないと子どもたちにも思いは伝わらないだろうと思った。」との感想があった。
- ・教育委員から「英語の公開授業で、いきなり子どもに英語の文章を書く場合、書く段階で止まってしまうが、Google 翻訳を使えば英語が出てくる、それを活用していくと止まることなく進んでいけるが、使うことが良いかどうかという議論があった。自分たちが中学生時代だった時と非常に違うなということを改めて実感した。」との感想があった。

(4) 人権同和教育事業について

- ・社会教育指導員から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

(5) 市誌編さん事業の進捗状況について

- ・市誌編さん室長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

(6) 来月以降の文化施設の行事日程について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

(7) 共催・後援について

- ・学校教育課長から資料に基づき説明
- ・教育長職務代理者から「佐久市で行われるイベントについて、伊那市へ後援の依頼が来た経緯はどうか。」との質問があり、生涯学習課長から「市内の中学生が参加することから、主催者から地元の市町村に依頼があったものと承知している。」旨の回答があった。

5 その他

- (1) 今後の主な日程について
- (2) 来月以降の主な行事予定について
 - ・三澤教育次長から(1)から(2)まで、資料に基づき説明

6 閉 会